東京学芸大学リポジトリ
Tokyo Gakugei University Repository

祖母力を活用した育児支援のあり方の検討

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2011-08-09
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 久保,恭子, 田村,毅
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/2309/108121

東京学芸大学紀要　総合教育科学系Ⅱ　62: 257－261，2011.

祖母力を活用した育児支援のあり方の検討

久　保　恭　子*・田　村　　毅**

生活科学分野

（2010年9月27日受理）

Ⅰ　はじめに

わが国において，乳幼児を持つ母親の育児支援者は夫や祖母（母親の実母）であることが多く[1)2)3)4)5)]，育児支援を推進する医療者としても，祖母力（祖母による育児支援，孫の世話や子ども夫婦への支援）への期待は大きい。このような背景から，近年では，祖母の育児支援を円滑に行うために，孫育てセミナーの必要性[6)]や祖母を対象とした孫育児支援プログラムを実施し効果を得たという報告[7)]，祖親性の国際比較をしたもの[8)]などが報告されている。

著者らが育児を支援する祖母を対象に行ったインタビュー調査では，祖母は孫の日常生活の援助や，子ども（孫の親）への経済的，精神的な支援を行うことにより，自分の人生を肯定的に捉え，人生に張り合いを持ち，孫の世話をすることは祖母自身が癒されたと感じること，母親の母親（グレートマザー）になったのだという達成感があることが明らかであり，このことから，孫を持ち，孫の育児を手伝うことは，祖母（女性）の生涯発達をみるとよい影響を及ぼしていることがわかった[9)]。一方で，この調査から，孫の世話に重荷や限界を感じている祖母もおり，これらのことは祖母のQOLの低下を招く可能性があると考える。

私たち看護職者は育児支援の推進とともに，育児を支援する祖母らの生涯発達やQOLの向上を支援する役割がある。本研究の目的は，育児支援をする祖母らのQOLの向上を目指して，祖母力を活用した育児支援（孫育て支援）を普及していくための示唆を得ることである。このことは，今後の育児支援をする祖母をサポートする上での貴重な資料となり，意味のあるものと考える。

Ⅱ　研究方法

1　方法

1）対象と方法：東京都内，近郊に住む孫を持つ女性480名に質問紙調査を行った。

2）時期：データ収集期間は2007年6月から2007年12月までである。

3）質問紙調査の内容：祖母の年齢，健康状態，家族構成，孫の年齢，孫の数，祖母力について，孫誕生時の自身の気持ちや生活の変化，WHOQOL26で構成をした。祖母力について，孫誕生時の自身の気持ちや生活の変化については「非常にそう思う（5点）」から「思わない（1点）」の5段階で回答してもらった。

4）倫理的配慮：調査の趣旨を説明し，同意者に質問紙調査を配布，密封返送を持って同意されたものとみなした。また，調査の趣旨の説明時，個人情報については厳重に管理し，データ処理にあたってはコード化し文書上の匿名性を守秘した。調査終了後の辞退についても可能であること，研究終了後データは速やかに処分をすること，データは研究終了後に破棄することを説明し，了解を得た。なお，本研究は研究者らの所属する大学の倫理委員会の承認を得ている。

＊　埼玉医科大学
＊＊　東京学芸大学（184-8501　小金井市貫井北町4－1－1）

２　分析方法

祖母の QOL 得点に関連する背景因子を相関分析，母平均値の差の検定で明らかにした。次に QOL 得点に関連する背景因子の特徴を明らかにするために，再び，母平均値の差の検定を行った。分析は SPSS ver.15を用いた。

３　用語の定義

本研究では次の用語を以下のように用いる。

祖母：血縁関係のある孫のいる女性

祖母性：女性が心理的・社会的に祖母になること

祖母力：育児支援の担い手としての祖母の力

Ⅲ　結果

１）対象者の概要：質問紙は480配布し，回収312，有効回答数は298（59.5％）であった。平均年齢は64.4歳±7.2歳（49～85歳）であり，60歳代が半数を占めていた。有職者は57名であり，家事に専念が67名，ボランティアなどの活動をしているものが174名であった。健康上，特に問題がないと回答している者が93名，高血圧がある者が65名，その他，更年期障害，神経痛などの症状があると回答した者もいたが，今回の対象者は日常生活や社会活動が健康上の問題で参加できない者は含まれていない。家族構成は，夫と２名で暮らしている137名（58.5％）であり，子ども夫婦と孫と一緒に暮らしているが58名（24.6％）であり34名が息子とその妻，孫と生活，15名が娘とその夫と孫で生活をしていた。一人暮らしであると回答したものは13名であり，自分の息子もしくは娘と夫と生活している81名，自分の姉と２人暮らしである１名，義理の母と子どもと生活している等その他が５名であった。

孫の年齢は０歳から７歳未満であり，人数は１名から７名であった。内孫（息子の子どもとは限らない）がいると回答したものは196名であった。最も可愛がっている孫の年齢等に関してはほとんどの人が「どの孫も可愛い」と回答していた。

孫が近くに住んでいる（孫と自分の住んでいる場所が車で30分前後）は190名，それ以外のものは79名であった。孫と会う頻度は，毎日２時間以上50名（19％），毎日１時間から２時間程度14名（5.3％），毎日１時間以下10名（4.8％），週に2.3回36名（13.7％），週に１回34名（12.9％），１ヶ月に１回65名（24.7％），それ以下54名（20.5％）であった。

２）祖母のQOL得点

表１　祖母のQOL得点

	平均値	標準偏差
身体的領域	3.50	0.42
心理的領域	3.67	0.51
社会的領域	3.27	0.72
環境領域	3.43	0.58
QOL得点	3.56	0.48

WHOQOL26[10] を用いた。平均値（標準偏差）は「身体的領域」3.50（0.42），「心理的領域」3.67（0.51），「社会的関係」3.27（0.72），「環境領域」3.43（(0.58），QOL 得点3.56（0.48）であった。

３）祖母のQOL得点と祖母の背景要因との関連

祖母の QOL 得点と仕事の有無，健康状態，孫の数，内孫の有無，孫が近くに住んでいるか（車で30分前後）について，相関分析，母平均値の差の検定を用いて検定した。結果，孫が近くに住んでいるか，いないかで有意な差が認められ，孫が近くに住んでいる祖母の QOL 得点「身体的領域」は平均値3.62，標準偏差1.32，孫との距離が遠い祖母の QOL 得点「身体的領域」は平均値3.45，標準偏差1.26，であり，孫がそばに住んでいる祖母のほうが QOL が高かった（ $p = .000$）。その他の項目では有意な差は見られなかった。そこで，祖母と孫との距離の遠近よって，祖母にどのような差があるのか，祖母の特徴を明らかにした。

４）孫誕生時の祖母自身の気持ちと祖母と孫との距離

孫が生まれたときの気持ちとして「嬉しかった」「生命の神秘を感じた」「すばらしい」「生命のつながりを感じた」「幸せ」「ほっとした」「私の出番だと思った」の７項目を質問した。結果，「私の出番だと思っ

表２　孫誕生時の祖母自身の気持ちの変化と孫との距離

	孫と祖母との距離が近い	孫と祖母との距離が遠い	
嬉しかった	4.89（3.76）	4.81（0.23）	
生命の神秘を感じた	2.66（1.43）	3.01（1.36）	
すばらしい	4.68（0.64）	4.68（0.60）	
生命のつながりを感じた	4.65（0.65）	4.55（0.74）	
幸せ	4.77（0.63）	4.65（0.60）	
ほっとした	4.55（0.84）	4.43（0.87）	
私の出番だと思った	2.69（1.26）	2.46（1.38）	p=0.01

た」で有意な差が見られ，孫がそばに住んでいる祖母のほうが「私の出番だ」（ p = .001）と感じるものが多かった。

5）祖母力 と祖母と孫との距離

表３　祖母力と孫との距離

	孫と祖母との距離が近い	孫と祖母との距離が遠い	
食事のしたく	3.19（1.56）	2.40（1.60）	p=.001
洗濯	2.42（1.61）	1.87（1.45）	p=.014
掃除	2.21（1.51）	1.76（1.27）	p=.025
風呂掃除	2.12（1.61）	1.61（1.19）	p=.008
生活費の援助	2.56（1.53）	1.96（1.37）	p=.005
孫の入浴介助	2.60（1.51）	2.21（1.47）	ns
おむつ交換	3.15（1.48）	2.57（1.55）	p=.010
孫とあぞぶ	4.05（1.10）	3.74（1.36）	p=.008
孫の食事介助	3.45（1.36）	2.77（1.49）	p=.001
孫のしつけ	3.12（1.29）	2.58（1.39）	p=.006

実際に祖母が行っている支援として「食事のしたくを手伝う」「洗濯を手伝う」「掃除を手伝う」「風呂掃除を手伝う」「生活費の援助をする」「孫の入浴介助（沐浴）を行う」「おむつ交換をする」「孫の遊び相手になる」「孫の食事を介助する」「孫のしつけをする」という10項目を質問し，祖母と孫との距離の遠近によって，祖母にどのような差があるのかみた。結果，「食事のしたくを手伝う」「洗濯を手伝う」「掃除を手伝う」「風呂掃除を手伝う」「生活費の援助をする」「おむつ交換をする」「孫の遊び相手になる」「孫の食事を介助する」「孫のしつけをする」の 9 項目で有意差がみられ，孫がそばに住んでいる祖母のほうが，祖母力を発揮していた。

6）孫が生まれてからの自分の生活の変化と祖母と孫との距離

孫誕生後の祖母自身の生活の変化について，「自由な時間が減った」「仕事の時間が減った」「睡眠時間が減った」「家事の負担が増えた」「友人との交流が減った」「夫との会話が増えた」「家族団らんの機会が増えた」の 7 項目を質問し，祖母と孫の距離との遠近によって，祖母にどのような差があるのかみた。結果，「自由な時間が減った」「仕事の時間が減った」「睡眠時間が減った」「家事の負担が増えた」「友人との交流が減った」「家族団らんの機会が増えた」で有意な差がみられ，孫がそばに住んでいる祖母のほうが，自分のプライベートな時間が減り，家族団らんの時間が増加していた。

表４　孫が生まれてからの祖母自身の生活の変化と孫との距離

	孫と祖母との距離が近い	孫と祖母との距離が遠い	
自由な時間が減った	2.07（1.44）	1.73（1.08）	p=.000
仕事の時間が減った	1.86（1.14）	1.32（0.66）	p=.000
睡眠時間が減った	1.72（1.03）	1.41（0.83）	p=.027
家事の負担が増えた	2.22（1.37）	1.63（1.08）	p=.000
友人との交流が減った	1.82（1.11）	1.51（0.88）	p=.019
夫との会話が増えた	3.40（1.34）	3.33（1.42）	ns
家族団らんの機会が増えた	3.85（1.17）	3.47（1.27）	p=.026

7）孫が生まれてからの苦労と祖母と孫との距離

表５　孫が生まれてからの苦労と孫と祖母との距離

	孫と祖母との距離が近い	孫と祖母との距離が遠い	
孫の世話で毎日精神的にとても疲れてしまう	2.63（0.67）	1.98（0.54）	p=.012
孫の世話で家事やその他のことに手がまわらなくて困る	2.03（0.99）	1.74（0.78）	p=.006

「孫の世話で毎日精神的にとても疲れてしまう」「孫の世話で家事やその他のことに手がまわらなくて困る」の 2 項目と祖母と孫の距離との遠近によって，祖母にどのような差があるのかみた。結果，2 項目とも有意な差が見られ，孫がそばに住んでいる祖母のほうが精神的にも身体的にも負担が大きかった。

Ⅳ　考察

本研究から，孫が近くに住んでいる祖母の QOL は高いものの，これらの祖母の特徴として，より多くの祖母力を発揮しており，自分自身の生活の変化も大き

く，孫支援が負担となっていることが示唆された。小野寺の研究では祖母にとって，孫の存在は喜びであるが，孫支援そのものを喜びとするものは少ない[11]，安藤らの研究では祖母は自分の時間を犠牲にしてまで，子どもに献身をすべきではない[12] と考えていることが明らかになっており，これらのことからも孫が近くに住んでいる祖母の育児支援が過度にならないような支援が求められている。

現代の祖母世代の就労率は高く，このことは自身の収入にも影響をし，就労等の程よい活動は祖母らの健康を維持しているものと推測される。この上に孫への育児支援の負担が過度となれば，慢性的な疲れから健康障害を起こす可能性もある。祖母と孫との居住の近さは，祖母にとって可愛い孫とすぐに会える，孫の成長・発達を感じ取ることができるというメリットがある。一方，子育て期の家族は，気心が知れた祖母へは育児支援を頼みやすく，普段から交流のある祖母は孫の特徴をよく理解しており，また，孫も祖母になついていることが多く，家族は安心して祖母に孫を預けられるというメリットがある。さらに，祖母による孫への育児支援は無償であることが多く，経済的にも親の負担は少ないものと想像する。このような背景から，祖母は，親が困っており，可愛い孫の世話を頼まれれば嫌とはいいづらく，少々の無理をしても孫の世話を引き受けざるを得ないのかもしれない。

このような現状を見ると，現在の育児支援は血縁で結ばれているものが多い。しかし，今回の結果から，今後，血縁のみならず，地縁での子育て支援を充実し，祖母らの負担を軽くしていく必要がある。現在，地域における子育て支援として，産前・産後のヘルパー派遣，高齢者や中高年者による育児サポート事業，育児サークル，子育て支援センター等が中心となって整備されている子育てサポート事業，保育園や放課後児童クラブ，家庭的保育事業，病児・病後児保育，休日保育など多様なサービスが存在する。しかし，これらは申し込みから支援を受けるまでに時間がかかり，有料であることも多く，子育て期の家族が利用しにくい面もある。このような地域での子育て支援事業を，経済面での負担の軽減も考慮しつつ，さらに子育て家族が利用しやすいような方法に改善していく必要がある。

女性の出産年齢の高齢化に伴い，祖母となる年齢も高くなってきた。また，女性の価値観の多様化，就労状況により，孫支援に価値をおかない祖母も増加する可能性もある。今後，血縁に頼らず，地縁での子育て支援の充実，つまり，地域での子育て支援事業の充実が求められる。

Ⅴ　結論

祖母と孫との居住地が近いほうが祖母の QOL は高いが，孫への育児支援の負担も大きかった。今後，血縁による育児支援のみならず，地域における育児支援の充実が求められる。

参考文献

1）柳川真理．周産期保健指導に関する一考察．香川母性衛生学会誌．2003．3巻1号，32-44.

2）榮玲子．産後1ヶ月の育児協力者別にみた褥婦の乳児への愛着と母親としての意識．母性衛生．2006．47（1），81-87.

3）松下キヨ子　岩澤和子．産褥1ヶ月間の褥婦の心配事と，実母の援助との関係－実母の援助態度別分析－．日本助産学会誌．1992．6（1），31-37.

4）柳川真理．妊娠から産後1ヶ月の援助と二者関係－実母と義母との比較を中心に－．香川医科大学看護学雑誌．2003．7（1），109-118.

5）飯島久美子　松園典子　大日向雅美他．母親に対する育児に関するアンケート調査から－母親の就労，夫の協力，祖父母同居とのかかわりと母親の意識－．小児保健研究．1991．59（1），16-19

6）鶴川明子．孫育てセミナー　育児支援としての祖父母へのアプローチ．保健師ジャーナル．2005．61，330-334

7）石井邦子　井出成美　佐藤紀子．家族員の育児対処能力向上のための孫育児支援プログラムの有用性と課題．千葉看護学会誌．2008．14（1），107-113.

8）安藤究．祖親性（Grandparenthood）の国際比較における課題．福祉社会学部論集．2001．第20巻第2号（鹿児島国際大学．1-15.

9）久保恭子　及川裕子　刀根洋子．わが国における祖母の育児支援－祖母性と祖母力－．日本母性衛生学会誌．2008．49（2），303-311.

10）石崎裕香　中根允文　田崎美弥子．精神疾患の QOL 日本における WHOQOL WHOQOL26の一般人口における特徴．メディカルサイエンス．2002，277-292.

11）小野寺理佳．祖母から見た家族境界－育児支援対象子は「家族」なのか．李刊家計経済研究．2003．6．69-77.

12）安藤究．新しい祖母の誕生？－祖父母のライススタイルの変容の可能性について　森岡清志・中村一樹編．変容する高齢者像－大都市高齢者のライフスタイル．東京．勁草書房，1997，79-118.